

獨逸金融窮乏

休戦ニ何生にして海寇破りたるを以て大果實は三日月御前在のちせらる可し
 及び城國の御米並は翌日の爲に
 國に於て日銀行家の價値を維持
 及び諸國の御米並は翌日の爲に
 國に於て日銀行家の價値を維持
 及び諸國の御米並は翌日の爲に

比すれば一陸半の購費に相當

一、
初陽京地（五）二
以之財寶所 大陽屋敷 旗本宅 一草子

六十
後出中服一節二十七圓七十錢二箇
錢一錢九千銀三兩八十六錢七毫九
錢縫七十八八九十九圓八十元九角七
分五厘六微下等者
佐仕位
高直

二百六十四圓八十錢
三百四十五圓八十錢

[illegible]

お先真闇の西伯利

租税も拂はねば政府に償還も 認めて居るた、剣の力で...

西伯利の現状は、昨今の日本に於けるものと同様である。租税も拂はねば政府に償還も認めて居るた、剣の力で... 西伯利の現状は、昨今の日本に於けるものと同様である。租税も拂はねば政府に償還も認めて居るた、剣の力で...

第二の政府

が現れて又新 しい政令を...

第二の政府が現れて又新しい政令を... 第二の政府が現れて又新しい政令を...

大御心

有難き 御心...

大御心有難き御心... 大御心有難き御心...



初冬の榮畑

電報五十通の中に 死亡通知が廿通

悪性感冒の被害は甚大だ

電報五十通の中に死亡通知が廿通... 悪性感冒の被害は甚大だ... 電報五十通の中に死亡通知が廿通...

戦後の

用意ありや 無きや...

戦後の用意ありや無きや... 戦後の用意ありや無きや...

下痢症

横須賀海軍病院 連署嘆願...

下痢症横須賀海軍病院連署嘆願... 下痢症横須賀海軍病院連署嘆願...

漬物

御土産に 西伯利の冬...

漬物御土産に西伯利の冬... 漬物御土産に西伯利の冬...

朝鮮人の 運轉手

大阪市電 で大勢集...

朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集... 朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集...

長春局員の 連署嘆願

長春市電 で大勢集...

長春局員の連署嘆願長春市電で大勢集... 長春局員の連署嘆願長春市電で大勢集...

朝鮮人の 運轉手

大阪市電 で大勢集...

朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集... 朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集...

朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集... 朝鮮人の運轉手大阪市電で大勢集...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

女男の みふ

行方不明 の謎...

女男のみふ行方不明の謎... 女男のみふ行方不明の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行

安達原 の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

大興行安達原の謎... 大興行安達原の謎...

「その實、意外に玉のほけな
い。我から囁みつけて、
お茶は不味さうに夢酒を飲み干し
て、こゝで一萬ご纏つて借ものが
なければ、生命を賣つても惜くはな
い。」

それなら、先日のお話を直して
「何しろ先方はますましく火
の手が上るばかりだ。あんな些
さい手紙が上るに置いて置くのは、
誠に可哀がる味には相違が
ない。譬へん、平凡な考へはむに似た
い。」「こゝで一萬ごを指したぬき
何時、こんな強奪ご混合から飛込
めぬとも知れませんが、」

「まあ、さういふ僥倖こそ情く考
へさせて貰はない。もう夢酒
を飲むに足らぬが、親平は椅子に
身を埋めて思案探偵。
この隙子を見入るながら、猪狩
は朝平の前に置かれたコップを引
寄せ、未だ口をつゆぬ三杯の夢
酒を飲んだ。」

「あれなら大丈夫！ 猶愛しい御村
談！ 手前共へ………」

「それから、拙宅の方が宜かうで、
これから一軒にお出でないかい。
」怒り、又脚馳走されるさお氣の
母と萬。

「さうして、それを離退する猪狩
さんもあるまい。」

「相違なく極れば一刻早く、朝
平がフオークの前で食卓をうつ
ろ、女給呼ぶだけの處へ、陽
気な笑聲を先に臨へ上つて來
た。」

客風に酔ひ、撒き水の月
撒きを添ふ撒き水夕顔、
水打た水快くに花を選び、
水打らし星光より庭の闇
水打とし雨の出早や鳴笛の聞
水打とし自轉車の輕き機織
水打とし花車、
水打とし二月一日雪が泣
水打とし梢間より夕日影
打水や草木息つく夕日影

鼈主鬼
同 同 同 同 同
樂 楓 春 同
天 山 秋 草
仙 同 香 同
翠 苔

好へて置く前に記した五ウツの茶
碗は砂断ならば十五ウツの粉
ならば七ウツ入るべき。

日
報
俳
壇

國水無月會歌集 瑞興

水

北島春石作 森田久盡

ビヤホール (三)

[illegible][illegible]

●獨潜水艇屏息
根據地の喪失
を發するに過ぎざるに至れり而し國約廿隻獨逸約十隻を發するも境出入するには此等聯合國艦隊の存在を各方面に出動し居る敵艦の隻數艦は今次城國の單獨休養體薩に基て或る突破せざるべからざるの勢に正確に知り離るも各種の情報をづき聯合國側の占有上は是は險あり爲に獨逸に於ては他國通商

[illegible][illegible]